

CONTENTS

1. STANDARD EQUIPMENT 標準装備の解説	2. CITY SPEC シティスペックの解説	3. TOURING SPEC ツーリングスペックの解説	4. VEHICLE HEIGHT & DRIVE DYNAMICS 車高とドライブダイナミクス	5. EMERGENCY etc. 緊急時の操作方法など
----------------------------------	----------------------------	---------------------------------	---	---------------------------------

ADVANCED SAFETY EQUIPMENT

ベンティガの  
先進安全装備の  
操作方法

ベンティガの納車が始まり、リテーラーの皆様からベンティガの先進安全装備に関するお問い合わせを数多くいただいています。

これを受けベントレー モーターズ ジャパンでは、あらためて日本仕様ではどの機能が標準装備されているのか、どの機能がオプションなのかを明確にし、それぞれの機能の内容と操作を解説するためディーラー アカデミー ニュース特別編を制作し、これらの機能について理解を深めていただこうと考えています。先進安全装備の操作方法以外についても、皆様からお問い合わせを多くいただいている機能や緊急時の操作方法についても記載しました。納車時のお客様への説明に役立ててくださいますよう、お願いいたします。

日本仕様のベンティガの先進安全装備について

ベンティガの先進安全装備に含まれる機能を右の表にまとめました。どの機能が標準装備で、どのパッケージに何の機能が含まれるか理解を深め、お客様にご案内する際の参考にしてください。

また、以下に挙げた例のように、いくつかの機能はインフォテインメントシステムでチェックボックスにチェックを入れるか外すかして、有効/無効を切り替えたり調整したりできます。



上段左から2番目の「CAR (車)」アイコンをタップして設定項目に移動する

	パッケージオプション名	機能
<input type="checkbox"/> 全車標準 (→P2へ)		Bentley セーフガード ハイビームアシスト ブラインドスポットアシスト エグジットワーニング (降車警告)
<input type="checkbox"/> 日本仕様標準	シティスペック (→P3・P4へ)	シティセーフガード 歩行者警告 リア発進後方トラフィック警告 パークアシスト トップビューカメラ
<input type="checkbox"/> オプション	ツーリングスペック (→P5・P6へ)	アダプティブクルーズコントロール Bentley セーフガードプラス ヘッドアップディスプレイ レーンアシスト ナイトビジョン トラフィックアシスト
	オールテレインスペック (→P7へ)	レスポンスオフロードセッティング ダイナミックドライブコントロール ラゲージマネジメント トップビューカメラ アンダーフロアプロテクション

ハイビームアシスト	ホーム画面 → CAR → 各種設定 → 車両設定 → 照明と視界 → エクステリアライト → オートヘッドライト
トラフィックアシスト	ホーム画面 → CAR → Bentley アシストシステム → トラフィックアシスト
レーンアシスト	ホーム画面 → CAR →  ボタン → レーンアシストから、ステアリング補正の早い/遅い、ステアリング振動警告のオン/オフの選択が可能。

OPERATION OF BENTAYGA [ベンティガの先進安全装備の操作方法]

1. STANDARD EQUIPMENT

— 全車標準装備 —

BENTLEY SAFE GUARD

Bentley セーフガード

ESCやブラインドスポットアシストのリアレーダーなどから送られる情報を解析し、乗員の安全を守るための措置を講じる機能です。Bentleyセーフガードが起動すると、ドライバーインフォメーションパネルに警告シンボルとメッセージが表示されます。

不安定な走行条件や潜在的な後面衝突の可能性を検知すると、以下をはじめとする特定の機能を有効化します。

- 視覚的な警告
- シートベルトの緩みの軽減とプリテンション
- サイドウィンドウとパノラミックサンルーフの自動クローズ
- 後面衝突回避システムの作動
- シートとシートバックのサイドボルスターへの空気の注入 (仕様によって異なる)
- ハザードランプの作動

作動条件

- 危険な事態、緊急ブレーキの作動が検知されたとき
- ESCシステムが有効化したとき
- 低速での衝突が検知されたとき
- 後続車両が自車のリア部と衝突するとリアレーダーが検知したとき



Bentley セーフガードが起動すると、ドライバーインフォメーションパネルに警告シンボルとメッセージが表示される

HIGH BEAM ASSIST

ハイビームアシスト

対向車と先行車を監視し、他の車両や歩行者を幻惑せずに視認性を最大限に確保するようハイビームを自動的に調整する機能です。ハイビームのパターンは、タウンモード、カントリーモード、モーターウェイモードの3種類があります。

■ 設定方法

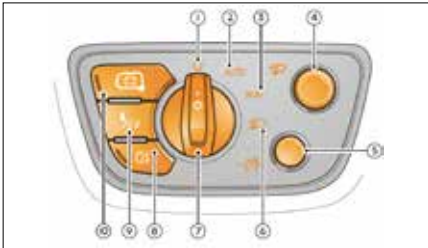
- ① メインランプスイッチを「AUTO」にします
- ② インフォテイメントシステムのホーム画面から、CAR → 各種設定 → 車両設定 → 照明と視界 → エクステリアライト → オートヘッドライトの順に進みます。
- ③ ハイビームアシストの項目のチェックボックスを選択します。

作動条件

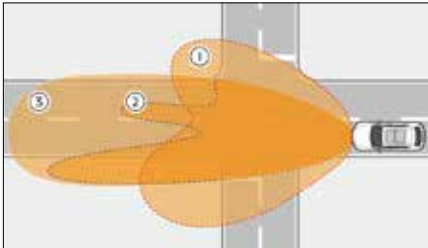
メインランプスイッチが「AUTO」に設定されていること。

タウンモードは車速が56km/h未満のとき、カントリーモードは56 ~ 96km/h、モーターウェイモードは96km/h以上でそれぞれ作動します。

！ ハイビームアシストはあくまでもドライバーを補助する機能です。状況によってはハイビームアシストが機能しないことがあります。ヘッドランプを必要に応じて手動でオン/オフを切り替える責任はドライバーにあることをお客様に必ず説明してください。



メインランプスイッチ⑦が「AUTO」②の位置に設定されているときにのみ作動



照射範囲のイメージ:①タウンモード、②カントリーモード、③モーターウェイモード

BLIND SPOT ASSIST

ブラインドスポットアシスト

後続の交通状況と車両両側の死角を監視する機能です。急速に接近している車両や死角を走行している車両をセンサーが検知すると、ドアミラーの警告灯が点灯してドライバーに注意を促します。

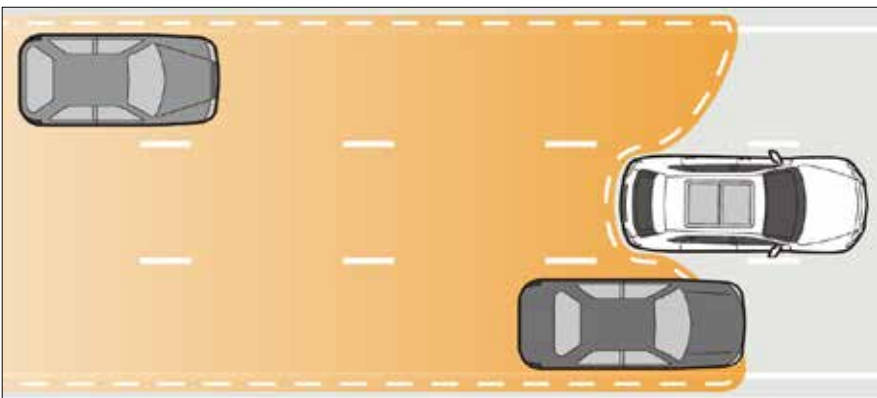
■ 設定方法

メインランプスイッチパネルのスイッチ（「ハイビームアシスト」の項目にあるメインランプスイッチのイラスト内⑩）でオン/オフを切り替えます。

作動条件

システムがオンの状態で、車速が約15km/hを超えると機能が有効になります。

！ ドライバーは交通状況および車両の周囲の状況に対して常に細心の注意を払う義務があり、ブラインドスポットアシストが確認行為の代わりになるものではないことを必ず説明してください。



センサーの対象範囲のイメージ

EXIT WARNING

エグジットワーニング (降車警告)

車両後方から他の車両や自転車が接近していて、ドアを開けると衝突する危険性がある場合に、ドアハンドルを引いてドアを開くとドアハンドル取付部のランプが赤色に点灯し、ドアミラーの警告灯も同時に点灯することで乗員に警告する機能です。

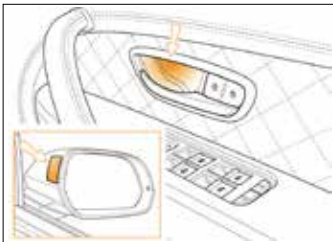
■ 設定方法

自動的に作動します。

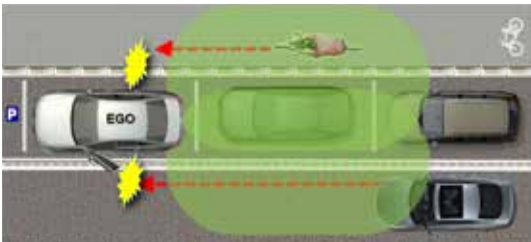
作動条件

ブラインドスポットアシストがオンで、停車している。イグニッションをオフにした後、または車両のロックを解除してドアを開けた後、約3分間有効になります。システムが無効になる際には、警告灯が短く点灯します。

！ エグジットワーニングは、乗員が車両の周囲に注意を払う代わりになるものではありません。車両に乗降する際には、周囲の状況に細心の注意を払うようお客様に伝えてください。



ドアハンドルとドアミラーカバーにある警告灯の位置。および作動のイメージ





OPERATION OF BENTAYGA [ベンティガの先進安全装備の操作方法]

2. CITY SPEC

— シティスペックに含まれるドライバーアシストシステム —

CITY SAFE GUARD

シティセーフガード

Bentley セーフガードの各機能に、自動緊急ブレーキを付加したシステムです。

車速が8 km/hを超えるとアクティブ状態となり、車内に設置されたモノビデオカメラが前方の交通を監視。前方車両との衝突の危険性を検知すると、まず警告音を発し、ドライバーインフォメーションパネルに警告マークとメッセージを表示して、危険な状況に目を向けるようドライバーに警告（早期警告）。

さらに衝突の危険性が高まり、かつ速度が85 km/h未満の場合、ブレーキを振動させてドライバーに回避行動を取るよう促します（緊急警告）。

それでもドライバーが回避行動を取らず、かつ速度が85 km/h未満の場合、自動的に緊急ブレーキを作動（自動ブレーキ）。ドライバーが警告に反応してブレーキをかけた場合にも、状況に応じて制動力を自動的に最適化します。

自動ブレーキの作動が85 km/h未満に限られているのは、シティセーフガードがその名の通り都市部での用途を想定しているため。基本的に50 km/h以下では衝突を回避し、51～85 km/hでは衝突による被害を可能な限り抑えるよう意図されています。

■ 設定方法

自動的に作動します。

作動条件

- 速度8～85 km/h未満
- ESCがオンになっている
- 運転席のシートベルトが締められている



インフォテイトメントシステムメニューのCAR → Bentleyアシストシステム → Bentleyセーフガードから、セーフガード機能のオン/オフ選択が可能となっています。警告メニューについては、視覚的、聴覚的な警告をオフにできるほか、発生のタイミングを3段階に変更することもできます。なお、セーフガードの機能をオフに切り替えた場合、次回イグニッションスイッチをオンにしたときに再びオンに戻ります。



- 自動ブレーキは、ドライバーがブレーキを踏んで離れたとき、アクセルペダルを強く踏んだとき、回避行動を取ったときにキャンセルされます。
- 車両システムがトレーラーの接続を検知すると、自動ブレーキシステムはオフになります。

ドライブダイナミクスモードとセーフガードの相互関係

	ドライブ ダイナミクスモード	ベントレー セーフガード	シティ セーフガード	セーフガード プラス
	Bentley	使用可能	使用可能	使用可能
SPORT	スポーツ	低減されるが使用可能	低減されるが使用可能	使用可能
COMFORT	コンフォート	使用可能	使用可能	使用可能
CUSTOM	カスタム	使用可能	使用可能	使用可能
	雪道&草道	使用可能	使用可能	使用可能
	土道&砂利道	使用可能	使用可能	使用可能
	泥道&山道	低減されるが使用可能	使用不可能	使用可能
	砂道	低減されるが使用可能	使用不可能	使用可能

Bentley セーフガード、シティセーフガード、Bentley セーフガードプラスは、選択されたドライブダイナミクスモードによって、作動の可否やしきい値が変化します。

PEDESTRIAN WARNING

歩行者警告

「シティセーフガード」と連動して、前方の歩行者や自転車、動物、横切る車両、柱、フェンスなどとの接触を可能な限り回避する機能です。

自車の進路上に歩行者等が存在する、あるいは進路上に侵入しようとしており、衝突の可能性があるとしてシステムが判断した場合、第一段階として警告音を発し、ドライバーインフォメーションパネルに警告マークとメッセージを表示。ドライバーに注意を促します（早期警告）。

ドライバーが対処せず、さらに衝突の危険性が高まると、ブレーキを振動させてドライバーに回避行動を取るよう警告（緊急警告）。

それでもドライバーが回避行動を取らない場合、自動的に緊急ブレーキを作動させて（自動ブレーキ）、衝突を回避します。ドライバーが警告に反応してブレーキをかけた場合にも、状況に応じて制動力を自動的に最適化します。

この動作ロジックは、8～85 km/hの対応速度を含めてシティセーフガードと共通で、50 km/h以下では衝突を回避し、51～85 km/hでは衝突による被害を可能な限り抑えるよう設定されています。

■ 設定方法

自動的に作動します。

作動条件

- 速度8～85 km/h未満
- ESCがオンになっている
- 運転席のシートベルトが締められている



歩行者警告を含むシティセーフガードは、モノビデオカメラを基盤とするシステムです。天候、フロントガラスの汚れ、カメラの不具合、急カーブなどの諸条件により、前方の車両や物体が正確に捕捉できない場合は、反応しないことがあります。



# OPERATION OF BENTAYGA [ベンティガの先進安全装備の操作方法]

## PARK ASSIST

### パークアシスト

車両を駐車する際、適切な駐車スペースを自動的に検出し、駐車動作をサポートするシステムです。道路に直交するスペースへの前進駐車と後進駐車、道路に平行なスペースへの縦列駐車の内いずれにも対応しており、縦列駐車した場合には出庫時の発進サポートも行います。

#### ■ 設定方法

ギアセレクター左下の **P** ボタンを押す



作動条件 ESCがオンになっている

#### 操作手順

- ① ギアセレクター左下にある **P** ボタンを押す。LEDが点灯し、インフォテイトメントタッチスクリーンに駐車スペースを探す車両が映し出されます。(右の図を参照)
- ② 必要に応じて駐車スペースを探す側を方向指示器を作用させて切り換えます(初期設定は助手席側)
- ③ 駐車スペースから約1 m離れた位置を平行にゆっくりと走行。30 km/h以下で道路に平行な駐車スペースを、20 km/h以下では道路に直交する駐車スペースも検知します。
- ④ 駐車スペースを検出すると、その時点で利用可能な駐車方法がスクリーンに表示されるので、希望の方法をタッチスクリーン上で選択します。
- ⑤ 駐車のために必要な操作手順が表示されるまでゆっくりと前進します。車両が適正な位置に到達すると「P」の文字が表示されます。
- ⑥ 車両を停止させ、表示に従ってギアセレクターを切り替え、ステアリングから手を離します。
- ⑦ アクセルをゆっくりと踏み込み、駐車スペースに車両を収めます。



- ！ 駐車スペースの検索中に速度がおおよそ 50 km/hを超えるとパークアシストがキャンセルされます。
- ！ 駐車アシスト中に速度が7 km/hを超える、あるいはドライバーがステアリングを手で操作するとアシストが無効になります。その場合、もう一度 **P** ボタンを押すことで復帰します。

以下の場合にパークアシストは作動しません

- ！ 駐車スペースが急カーブに接している。
- ！ トレーラーが接続されている。

## REAR CROSSING TRAFFIC WARNING

### リア発進 後方トラフィック警告

駐車スペースからバックで退出する際、リアバンパー両端に埋め込まれたレーダーセンサーが、車両後方を横切ろうとするクルマやバイク、自転車、歩行者などを検知し、接触を未然に防ぐシステムです。障害物が近づいてくると、インフォテイトメントタッチスクリーンに、赤い領域と停止表示板アイコンでその方向を示し、同時に警告音を発します。さらに衝突の危険性が高まると、短い急ブレーキをかけてドライバーにブレーキ操作を促すシステムになっています。

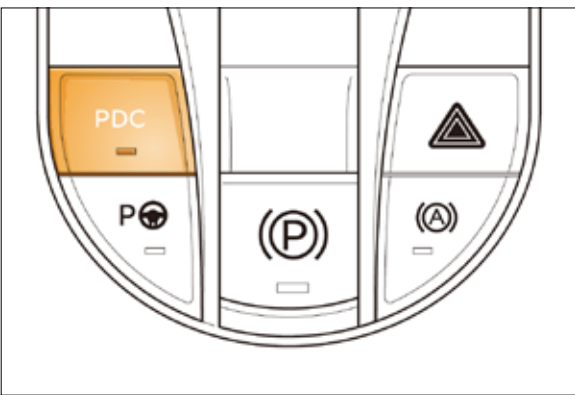


#### ■ 設定方法

- ！ ギアセレクター左下のPDC (パーキング・ディスタンス・コントロール) スイッチを押す。ボタンのLEDが点灯し、短い確認音が鳴る。
- ！ ギアセレクターレバーをR (リバース) 位置にする。

作動条件

- ！ ESCがONになっている
- ！ 車速 15 km/h未満



障害物の検知はPDCの機能に準じており、おおよその検知範囲は真後ろ方向が1.6 m、斜め後方が0.9 mとなっています。

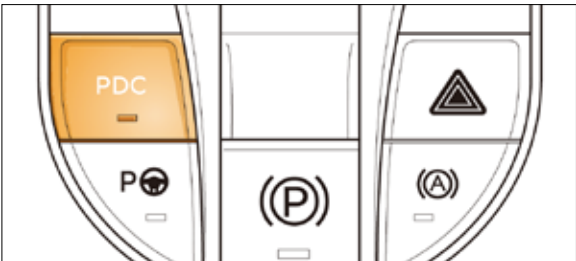
- ！ 車両が駐車スペースの奥にあって車両後部が隠れている、縦列駐車時など、すべてのケースで差し迫る衝突の危険性に対して警告を発することができるわけではありません。その逆に、該当するエリアに交通が無い場合も警告を発することがあります。
- ！ 警告によって自動的にブレーキがかかったあと、20秒間は次の自動ブレーキがかかりません。

## TOP VIEW CAMERA

### トップビューカメラ

ラジエターグリル下、リアナンバープレート取り付け部の上、左右のドアミラー上部に設けられたカメラからの情報を元に、車両を真上から見た画像を合成してインフォテイトメントタッチスクリーンに映し出し、車庫入れなどをサポートする機能です。

ベンティガのシステムは、必要に応じて車両前後の広角画像 (パノラマビューフロント/リア) と、車両前後の駐車範囲 (フロント/リアビュー) を切り替え表示できる点が特徴となっています。表示の切り替えはインフォテイトメントタッチスクリーン上部のアイコンを押して行います。



#### ■ 設定方法

- ！ ギアセレクターをR (リバース) 位置にする。(後退する場合)
- ！ ギアセレクター左下にあるPDC (パーキング・ディスタンス・コントロール) スイッチを押す。ボタンのLEDが点灯し、短い確認音が鳴る。

作動条件

- ！ ESCがONになっている
- ！ フロントドアおよびテールゲートが閉じている
- ！ ドアミラーが格納されていない



トップビューカメラ作動時のインフォテイトメントタッチスクリーンのイメージ

#### パノラマビュー (フロント)



フロント左右の広い範囲を表示。左右の見通しが利かない駐車場から通りに出る場合に効果的です。

- ！ カメラより高い位置に存在する物体や障害物は表示されません。
- ！ 車両からおおよそ 30 cmの範囲内にある物体は画面に表示されません。
- ！ PDC ボタンを再度押すか、10 km/hを超える速度で前進するとトップビューカメラがオフになります。



OPERATION OF BENTAYGA [ベンティガの先進安全装備の操作方法]

3. TOURING SPEC

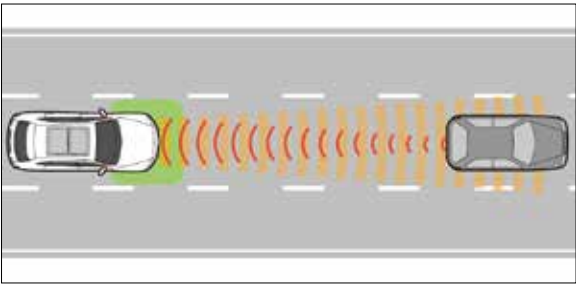
— ツーリングスペックに含まれるドライバーアシストシステム —

ADAPTIVE CRUISE CONTROL

アダプティブ クルーズ  
コントロール (ACC)

クルーズコントロールでの走行中に、前走車との車間距離を一定に保つよう加減速を自動的に制御し、長距離走行や交通量の多い環境でのドライバーの負担を大幅に軽減するシステムです。

車両前部に設置された1つのカメラ、2つのレーダー、4つの超音波センサーによって、最長200 m先を走行する車両を検知。時間差(車間距離)を維持しながら自動的に追従することができます。



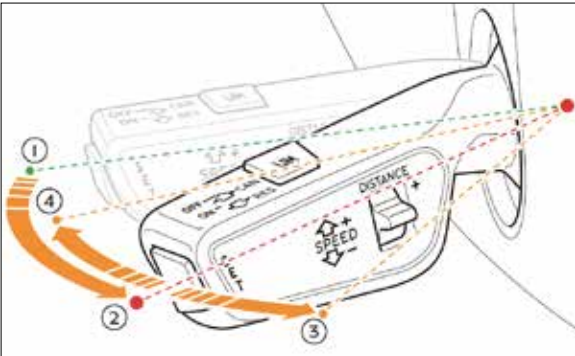
■ 設定方法

**ACC オン:** レバーを②の位置に動かすとACCのシステムがオンになります。レバーはこの位置に留まります。

**ACCの有効化/再開/一時停止:** レバーを③の位置まで引いて手を放すと、ACCが有効化(あるいは再開)します。レバーは②の位置に戻ります。レバーを引いたまま③の位置に保持するとACCが一時停止し、アクセルを踏むと加速します。

**ACCの取り消し:** レバーを④の位置に押して手を放すとACCの機能が停止します。レバーは②の位置に戻ります。

**ACC オフ:** レバーを①の位置に動かすとACCのシステムがオフになります。レバーはこの位置に留まります。



作動条件

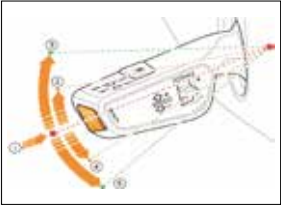
ESC (エレクトリックスタビリティコントロール) および ASR (トラクションコントロール) が有効化されている。

- 前走するオートバイが車線の端を走っているためにレーダーの検知範囲から外れている、あるいはオートバイが小さいためにレーダーが捕捉できないことがあります。
- ACCは歩行者、対向車、前方を横切る車両には反応しません。
- 捕捉していた前走車がカーブによってレーダーの検知範囲から外れたため、前走車がいないと判断して加速する、あるいは対向車を検知して減速する。前走車が右左折したために、その先の停止車両を検知して急減速するといったケースが想定されます。ACC作動中も常に周囲の交通に注意してください。

調整項目

□ ACC速度調整

レバー先端のボタン①を押し込むと、30 ~ 250 km/h の範囲で現在の速度にセットされます。



レバーを②に上げると1 km/h単位で、③に上げると10 km/h単位で設定速度が上がり、④に下げると1 km/h単位で、⑤に下げると10 km/h単位で設定速度が下がります。

□ ACC時間差(車間距離)設定

先行車との時間差(車間距離)を、1秒(100 km/hで28 m相当)/1.3秒/1.8秒/2.4秒/3.6秒(同100 m相当)の5段階に調整できます。



レバー前面のロッカースイッチ①を上倒す②と時間差(車間距離)は長く、下に倒す③と短くなります。設定した時間はポップアップ表示の車両間のバーの数で確認できます。

□ ドライビングプログラム

システムの動的挙動をコントロールするドライビングプログラムを「コンフォート/標準/ダイナミック」の3段階に設定できます。

インフォテインメントシステムのホームページ上でCAR → Bentley アシストシステム → ACC → ドライブプログラムから、希望のプログラムを選択します。

TRAFFIC ASSIST

トラフィックアシスト

ACCとレーンアシスト機能を組み合わせ、渋滞や混雑した交通状況(速度65 km/h未満)においてドライバーを支援します。

渋滞によってカメラで車線が認識できないような状況でも、横の車列を監視して車線から逸脱しないようにステアリングに修正を加えます。

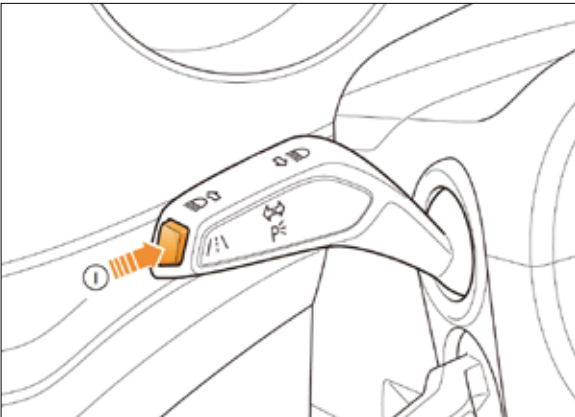
渋滞路では、ドライバーがステアリングを握っていることを前提として、

- 運転席のシートベルトが締められている。
- すべてのドアとボンネットが閉じている。
- 停止時間が3分未満であった。

場合に限って、前走車との距離を保ちながら最大3 km/hの速度で自動的に発進、停止する、完全な自律走行を行います。

■ 設定方法

- あらかじめインフォテインメントシステムで有効化しておきます(ホームページからCAR → Bentley アシストシステム → トラフィックアシストを選択)。
- 方向指示器レバー先端のボタン①を押してオン/オフを切り替えます。



作動条件

- インフォテインメントシステムでトラフィックアシストが有効化されている。
- アダプティブクルーズコントロールがオンになっている。
- レーンアシストがオンになっている。
- 車速65 km/h未満。

- ステアリングから手を離すと自律走行は停止します。
- システムに促されてもドライバーがステアリング操作を行わなかった場合、自動的にブレーキをかけて車両を停止し、オフに切り替わります。
- システムがオフになっていても、このシステムが利用できる状況を認識すると、システムをオンにするよう促します。

OPERATION OF BENTAYGA [ベンティガの先進安全装備の操作方法]

BENTLEY SAFE GUARD PLUS

Bentley セーフガードプラス

Bentley セーフガードおよびシティセーフガードをベースに、前面衝突の回避性能をさらに高めたシステムです。モノビデオカメラの情報に、アダプティブクルーズコントロール（ACC）のフロントレーダーセンサーからの情報も加え、前方の交通状況をより詳細に把握。最高 250 km/h まで自動ブレーキが対応できるようになっています。

衝突の危険性に応じて早期警告 → 緊急警告 → 自動ブレーキの3段階で危険回避を講じる基本的な流れは、シティセーフガードと変わりません。

それに加えて、障害物を緊急回避する際にドライバーのステアリング操作をアシストする「緊急レーンチェンジアシスト」機能（車速 30 ～ 150 km/h で有効）と対向車線を横切って右折する際に、対向車との衝突を回避する「交差点アシスト」機能（車速 10 km/h 以下で有効）も装備されています。

■ 設定方法

自動的に作動します。

作動条件

- ESC がオンになっている。
- 運転席のシートベルトが締められている。



交差点アシストについて

Bentley セーフガードに含まれる機能の1つです。対向車線を横切るようにして脇道に入る場合、対向車がいるとシステムがブレーキをかけて自車を車線内にとどまらせ、衝突を回避します。交差点アシストは車速が 10km/h 以下で有効となり、システムが作動すると警告音を発し、ドライバーインフォメーションパネルにメッセージを表示（P2 の「Bentley セーフガード」の図を参照）してドライバーに注意を促します。

作動条件

車速が 10km/ 以下

NIGHT VISION

ナイトビジョン

フロントグリルに内蔵された赤外線サーマルカメラにより、ヘッドライトの照射範囲を超える前方およそ 300 m の範囲内の歩行者や大型動物を検知し、ドライバーインフォメーションパネルにシルエットとして表示します。通常は黄色で強調表示されますが、衝突の可能性を検知した場合は赤色で表示し、警告音を発します。

車速が 60 km/h を超えている場合、対象物に向けてハイビームを 3 回連続で点灯させ、ドライバーに注意を促す「マーキングランプ機能」が備わっています。

■ 設定方法

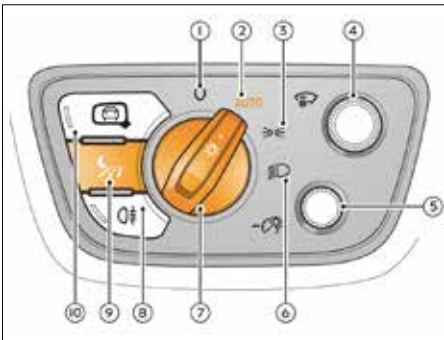
- ヘッドランプスイッチ⑦を Auto 位置②にする。
- ナイトビジョンスイッチ⑨を押してオン/オフを切り替える。

作動条件

周囲が暗くなりヘッドライトが点灯してから有効になります。



- 対象物と周囲の温度差を利用しています。温度差が極めて小さい、周囲が明るい、外気温が 28℃ を超えている場合は検知できないことがあります。
- 周囲が明るい場合、ハイビームを点灯させると対向車を幻惑させる可能性がある場合は、マーキングランプ機能は作動しません。



LANE ASSIST

レーンアシスト

60 km/h 以上の速度で走行中、ドライバーが意図しない車線の逸脱を防止するシステムです。車内に設置されたモノビデオカメラが前方の車線境界線を認識し、ウインカーが作動していない状態で車線を跨ぐような動きをすると、ステアリングに振動警告を発する（設定による）と同時に、電動パワーステアリングを使用して車両が車線を維持するよう補正します。

ブラインドスポットアシストが、後方から急速に接近する車両があり、車線変更が危険と判断した場合は、たとえウインカーを作動させても車線を跨がないよう補正を加えます。

■ 設定方法

方向指示器レバーもしくはヘッドランプレバー先端のボタンでオン/オフを切り替えます。

作動条件

速度 60 km/h 以上で、ステアリングを握っていることが作動の前提となります。ステアリングから手を離すと警告音を発して機能が停止しますが、ステアリングを握ると再起動します。

調整項目

インフォテインメントの CAR → ボタン → レーンアシストファンクションから、ステアリング補正の早い/遅い、ステアリング振動警告のオン/オフが選択できます。



気象条件、フロントガラスの汚れ、急カーブ、車線の幅が 2.5 m 未満または 4.5 m 以上あるなどの理由から、車線マークを検知できない場合は作動しません。



HEAD-UP DISPLAY

ヘッドアップディスプレイ

速度、ナビゲーション情報、ACC とレーンアシストのデータ、ACC の速度と設定距離、ナイトビジョンなどの車両情報を、ドライバーの視線上のフロントガラスに映し出し、視線移動量を最小限に抑えながら必要な情報を確認できるようにするシステムです。

■ 設定方法

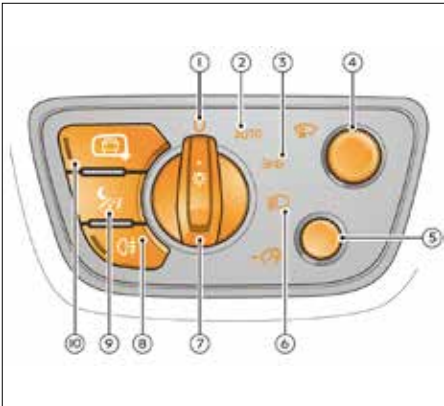
メインランプスイッチパネル右上のスイッチ④を押してオン/オフを切り替えます。

作動条件

オンにすればいつでも作動します。

調整項目

- 垂直方向の位置：オン/オフスイッチを回すことで調整できます。
- 明るさ、角度、表示内容：インフォテインメントシステムの CAR → Bentley アシストシステム → ヘッドアップディスプレイメニューから、それぞれの調整、選択が可能です。





OPERATION OF BENTAYGA [ベンティガの先進安全装備の操作方法]

4. VEHICLE HEIGHT & DRIVE DYNAMICS

— 車高とドライブダイナミクス —

HEIGHT CONTROL  
車高の設定

ベンティガに装備されているエアサスペンションシステムは、通常の使用時に車高を監視し、自動的に調整を行うことで荷重に関係なく車高を一定に保ちます。また、車両の仕様に応じて、さまざまな方法で車高を調整することができます。

また、高速走行時には車高が自動的に下がります。120km/hを超えると15mmダウン、160km/hを超えるとさらに15mmダウンし、最大で標準より30mm低くなります。



標準仕様の車両での車高調整

- ① インフォテインメントシステムのホーム画面から「CAR」を選択します。
- ② 「車両オーバービュー」を選択します。
- ③ インフォテインメントタッチスクリーンの左側に表示される上下の矢印(下の図の①と②)で希望する車高を選びます。



以下の表にベンティガで選択できる車高をまとめました。

モード	アイコン	車高	標準からの変更値	作動条件
Access モード		乗降に適した車高設定	-75mm	手動で選択
高速走行時 2	—	高速走行時に安定する車高	-30mm	車速が160km/hを超える
高速走行時 1	—	高速走行時に安定する車高	-15mm	車速が120km/hを超える
Normal モード		標準の車高設定	—	手動で選択
Raised モード		車高が上昇します	+20mm	手動で選択
Off-Road モード		最大の車高レベル	+45mm	手動で選択、ロックスイッチ(右上イラスト①)で固定が可能

オールテレインスペック装備車の車高調整

希望する車高の設定が選択されるまで、センターコンソールのロータリースイッチの隣にある車高設定スイッチ(イラストの②)を繰り返し押します。

また、オフロード走行時に車高が自動的に下がるのを防ぐ「Off-Road ロックモード」があります。このモードはOff-Road ロック ボタン(イラストの①)を長押し(2秒以上)してオンになります。車速が7km/h以下で、レスポンスブオフロードモードの「泥道&山道」か「砂道」に設定されているときのみ使用できます。



※イラストは右ハンドル仕様の例

DRIVE DYNAMICS  
ドライブダイナミクス

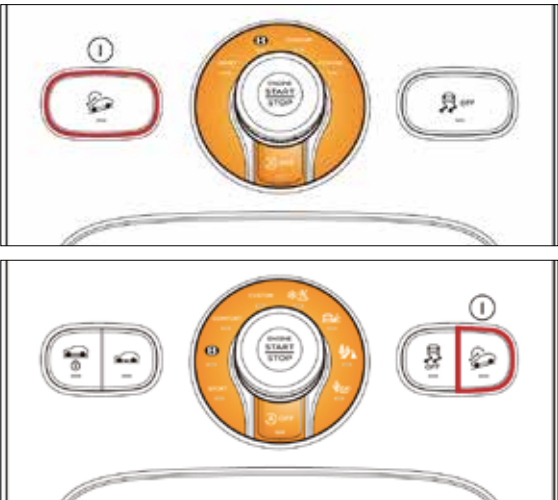
ベンティガの車高は、手動で設定する以外にも4つのドライブダイナミクスモード(全車標準装備)で選択したモードごとの設定に変更されます。オールテレインスペック装着車では、さらに4つのレスポンスブオフロードモードが追加されます。ドライブダイナミクスモードやレスポンスブオフロードモードは、車高だけでなくサスペンションの固さなども変わり、車両を最適化できる機能です。

ドライブダイナミクスモード (全車標準装備)	Bentley	快適性と性能のバランスを最適化した設定
	COMFORT	快適性を重視した設定
	SPORT	スポーティでダイナミックな走行に適した設定
	CUSTOM	好みの車両の設定に変更
オールテレインスペックのレスポンスブオフロードモード (パッケージオプション)	雪道&草道	滑りやすい路面の走行に適した設定
	土道&砂利道	未舗装路を走行する際に安定感を高める設定
	泥道&山道	一般的なオフロード走行時に適した設定
	砂道	柔らかい砂地での走行に適した設定

■ 設定方法

- それぞれのモードを選択するには、センターコンソールのロータリースイッチを操作します。
- CUSTOMで個別の設定を行うには、以下の手順で操作します。
- ① ロータリースイッチで「CUSTOM」を選択します。
  - ② インフォテインメントシステムの「車両オーバービューボタン」を押してホーム画面にアクセスします。
  - ③ 編集するボタンをタッチしてカスタムメニューに入り、それぞれの設定を行います。

**作動条件**  
イグニッションがオンの場合のみ使用可能。



標準仕様のロータリースイッチ(上)とオールテレインスペック装着車のロータリースイッチ(下)。写真はいずれも右ハンドル仕様の例

HILL DECENT CONTROL  
ヒルディセントコントロール

下り勾配での車速を調整し、速度を一定に保つ機能です。この機能は、勾配で車両を前進または後退させるときのどちらでも使用できます。

■ 設定方法

ヒルディセントコントロール(HDC)をオンにするには、センターコンソールのスイッチ(左のイラストの①)を使用します。HDCがオンになるとスイッチのLEDが点灯し、スイッチを再度押すとHDCはオフになりLEDは消灯します。

**作動条件**  
HDCをオンにして、勾配が10%以上の坂道で作動します。また、ドライブダイナミクスを使用して特定のレスポンスブオフロードモードが選択されると、HDCは自動的にオンに切り替わります。

HDCが作動している間、車速は2km/h ~ 40km/hの間で調整されます。

**!** HDCをオンにしたときに、速度と勾配の基準が作動条件を満たしていない場合、基準を満たす状況になるまでシステムはスタンバイ状態になります。

OPERATION OF BENTAYGA [ベンティガの先進安全装備の操作方法]

5. EMERGENCY etc.

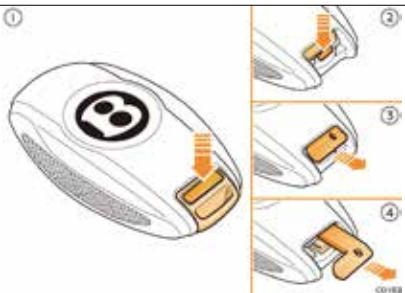
— 緊急時の操作方法など —

DOOR

ドアが開かないとき

車両のバッテリーやリモートコントロール キーの電池の放電などにより、キーレス アクセスおよびリモート コントロール キー機能が利用できない場合は、キー ブレードを使用してドアを開くことができます。

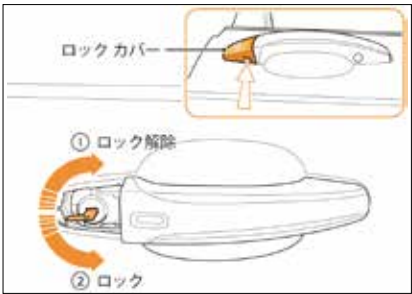
■ キー ブレードを取り外す



キー ブレードは、リモート コントロール キーの本体内にあります。

- ① キーリング アイレット横のボタンを押します (1)。
- ② ボタンを押したまま、キーリング アイレットからリモート コントロール キーの本体を引き外します。
- ③ 金属の爪を下向きに押します (2)。キー ブレードがスプリングで外側に押し出されます (3)。
- ④ キー ブレードを引き、取り出します (4)。

■ キー ブレードを使用して運転席ドアのロックを解除する



右ハンドル車の例

- ① キー ブレードを運転席ドア ハンドル下のロック カバーに挿入し、上向きにゆっくりとこじってカバーを取り外します。
- ② キー ブレードを運転席ドアのロックに差し込み、図のロック解除の方向に回します。

POWER TAILGATE

パワーテールゲートが開かないとき

バッテリーの放電などによりパワーテールゲートが操作できないときは、テールゲートを内側から手で開くことができます。

■ 操作方法

- ① テールゲート下部の停止表示板コンパートメントを開き、停止表示板を取り外します。
- ② 黄色の機械式リリース タブを上方へそして右へ押します。テールゲート キャッチが解放されます。
- ③ テールゲートをしっかりと力をかけて上方へ上げます。テールゲートが開きます。

**i** バレット モードが作動していると、テールゲートは開きません。インフォテインメント システムのテールゲート ロック オプションでバレット モードが作動していないか確認してください。

**!** テールゲートを手動で開閉している間は、挟み込み防止機能は作動しません。



イラストは閉じているテールゲートを車内から見た図

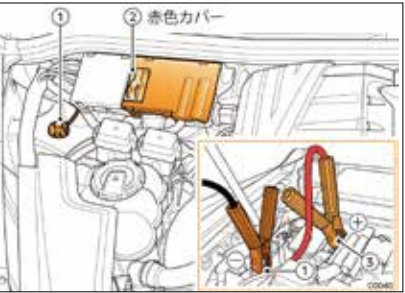
JUMP START

緊急時の始動方法 (ジャンプ スタート)

バッテリーの放電によりエンジンがかからない場合は、ブースター ケーブルを使用してエンジンを始動します。

■ 緊急時の始動方法

- ① パーキング ブレーキをかけ、両方の車両にパーキング ロックがかかっていることを確認します。
- ② イグニッションをオフにし、両方の車両のすべての電装品のスイッチを切ります。
- ③ ボンネットを開け、プラス⊕の赤色カバー②のキャッチを押し、赤色カバーを開きます。
- ④ 救援車両のバッテリーのプラス⊕端子に赤色のブースターケーブルを接続し、次に自車のプラス⊕のジャンプ スタート ポイント③に接続します。
- ⑤ 救援車両のマイナス⊖端子に黒色のブースターケーブルを接続し、次に自車のマイナス⊖のジャンプ スタート ポイント①に接続します。
- ⑥ 救援車両のエンジンを始動し、数分間アイドル状態にします。
- ⑦ 自車のエンジンを始動し、自車のエンジン始動後に救援車両のエンジンを切ります。
- ⑧ 以下の手順でブースター ケーブルを取り外します。
  - ▶ 自車の黒色ケーブル ▶ 救援車両の黒色ケーブル ▶ 自車の赤色ケーブル ▶ 救援車両の赤色ケーブル



BLUETOOTH

Bluetooth の接続方法

携帯電話をインフォテインメント システムに接続するには、Bluetooth で携帯電話をペアリングさせます。

■ 携帯電話をペアリングする

- ① ポップアップ画面または数字キーパッド ページで、[+] ファンクション ボタンを押します。
- ② 「電話設定」を選択します。
- ③ 「Bluetooth 設定」を選択します。
- ④ 「新しいデバイスを検索する」を選択します。
- ⑤ リストから接続したい携帯電話を選択します。
- ⑥ 携帯電話のパスコードを 30 秒以内に確認し、指示に従ってください。機種によっては、携帯電話の PIN をインフォテインメント システムに入力するよう指示される場合があります。携帯電話が車両とペアリングされます。

**!** 走行中は車両と携帯電話のペアリングを行わないでください。

トラブルシューティング:

携帯電話がペアリングできない場合は、以下を確認してください。

- 携帯電話の Bluetooth がオンで、他のデバイスから検索可能な状態になっていること。
- 携帯電話が現在、別の機器に接続されていないこと。
- 車両が現在、別の機器に接続されていないこと。
- 車両の Bluetooth がオンで、**Bluetooth の検出可能設定** の隣のチェックボックスにチェックが付いていること。



OPERATION OF BENTAYGA [ベンティガの先進安全装備の操作方法]

Q & A

質問事項と回答

ベンティガのトレーニングでは、さまざまな質問が寄せられました。そのうち特に全販売店で共有すべきだと思われるものを挙げておきます。P1～P8の説明と併せて活用してください。

先進安全装備関連

Q 出先で縦列駐車をする際に、どの車両位置でボタンを押せばよいのでしょうか？

A 駐車スペース手前にある車両に自車が重なった時にボタンを押すと、効率よくスペースを認識してくれます。

かなり手前からボタンを押すと、手前の駐車可能のスペースを探し出します。これを無視して直進すると、次のスペースを探します。

Q 自宅駐車場へバックで駐車する際に、どの車両位置でボタンを押せばよいのでしょうか？

A 縦列駐車時と同様です。上記の回答を参照してください。

Q パークアシスト機能で、角(端)の駐車スペースを認識させるにはどのようにすればよいのでしょうか？

A 前方に十分なスペースがない場合、スペースの認識ができないためパークアシスト機能は作動しません。

Q パークアシスト機能は、どのような状況だとボタンを押しても反応しないのでしょうか？

A 駐車スペースが極端に狭い場合は、パークアシストは機能しません。また、通常駐車の時のように車の頭を左右に振った場合は、正しく駐車スペースを認識できないため機能しません。駐車スペースは直進時のみ認識します。

Q 安全機能のグレードとその違いについて教えてください。

A 装備するパッケージオプションによって異なります。本資料P1の表をご覧ください、該当する機能の説明を参照してください。

Q 右折危険回避機能(交差点アシスト)の作動方法について教えてください。

A 本資料P6の「Bentley セーフガードプラス」の項目に交差点アシストの解説がありますので参照してください。

Q スポーツモードにすると「ベントレープレゼンスOFF」と表示されるのですが、何か機能が制限されるのでしょうか？

A セーフガードの緊急ブレーキングシステムがキャンセルされます。これは、スポーツ走行、オフロード走行で余計な電子デバイスが介入しないようにするためです。納車の際には念のためお客様にご説明ください。

車高について

Q 車高のMaxとMinはどれほどでしょうか？デモカーや展示車ではUKで当初見た車両ほど上下しないように見え

ず。何か操作方法があるのでしょうか？

A 本資料P7を参照してください。なお、スポーツモード使用時には車高は20mm下がります。

Q オールテレインスペック装着車でロータリーコントロールで「B」または「スポーツ」を選択してエンジンを止め、ドアを開けると車高が勝手に下がり始めました。常時下がるわけではないので、車高が下がるには何か基準があるのでしょうか？

A ベンティガはセルフレベリング機能により、常に車高を一定に保とうとします。乗員が多い場合、沈み込んだ分だけエアサスが車体を持ち上げますが、降車後車体が一時的に高くなり、それを戻すために車高を下げることもあります。ご質問の状況は、おそらくその一連の動作だと思われます。

Q オールテレインスペック装着車の右側のボタン(Off-Roadロックボタン)の作動要件がいまひとつわかりません。どの状況で光り、どの状況で押せるのでしょうか？

A 車高調整ボタンのロックは、オールテレインモードで車高を維持したいときにボタンを長押しします。車高がキープされている間はボタンのLEDが点灯します。

Q ラゲッジルーム内のリアの車高を下げるボタンは、標準で装備されているのでしょうか？

A 全車に標準装備されています。

Q ラゲッジルーム内の車高調整ボタンの使用方法について教えてください。

A ラゲッジルーム内の車高調整ボタンは、エンジンOFF時は使用できません。作動条件は以下のとおりです。

(1) 車両の全てのドアが閉じている

(2) イグニッションがONになっている

(3) エア サスペンション システム リザーバーに十分なエアが充填されている

なお、エンジンONの時はボタンを「長押し」で、イグニッションONの時は1回押しでアクセスモードになります。

インフォテインメントシステム

Q 市販CDをHDDに読み込ませる機能はないのでしょうか？

A 市販CDのJukeboxへのコピーはできません。Mp3、m4a、m4b、acc、wma、flatの拡張子の付いた音楽ファイルのみです。

Q CDを入れたら自動的にCDが再生されないのでしょうか？

A 機能として自動再生はしません。また、CDという表示はなく、ソースとして「DVD」を選択していただくとCDを聞くことができます。

Q ギアを「R」に入れた時、オーディオの音量がオフになるのですが、オフにならないような設定はできるのでしょうか？

A PDCが優先されるため、オーディオは音量がゼロになります。ギアを「P」に入れるか「D」で速度が10km/hに

なると音量が戻ります。サウンド設定でオーディオの音量を優先させることはできません。また、PDCをカットすることもできません。

Q ベンティガでは最大開始音量の設定は可能でしょうか？

A できません。

Q TSRをクレードルから外すことができません。ロックがかかっているとの表示が出るのですが、ロックの解除方法を教えてください。

A 輸送中の落下や盗難などを防ぐため、TSRをクレードルにロックしています。TSRのロックは、ODISで解除する必要があります。また、TSRをクレードルから外すには、イグニッションがONになっている必要があります。

Q ナビの地図に「東京ゲートブリッジの記載がない」というご指摘をいただきました。4年前くらいにできた一般道なのですが…。ナビはどのメーカー製で、何年バージョンなのでしょうか？また、アップデート方法やその時期についても教えていただけますか？

A ナビはアイシンAW製です。バージョンは「JPN2016」とありますので、最新版だと思われます。東京ゲートブリッジも確認できました。縮尺によって表示されない道路もあるようです。アップデート方法や時期については、今後BMJとクルーにて確認します。

一般操作および緊急時の操作

Q バック時にミラーの角度を調整した後、前進ギアに戻してもミラー角度が元の位置に復帰しません。実際に前進(アクセルを踏んで走る)すると戻りますが、微速で前後進する駐車時に不便という声が聞かれます。

A ロータリーコントロールが助手席側を向いた位置にあると、ギアを「R」に入れたときに助手席側ミラーがあらかじめ設定された位置に移動します。前進で15km/hを超える、またはロータリーコントロールを助手席側とは反対方向に回す、あるいはイグニッションをオフにするとミラーが元の位置に復帰します。

Q 緊急時のドアハンドルに隠れている鍵穴のカバーは、外した時に破損してしまうのでしょうか？

A 破損しません。再度利用することができます。

その他

Q 電動サイドステップは導入されないのでしょうか？お客様から強い要望が入っていますので、今後の見通しを教えてください。

A 現状では商品の検証が行われていないため、年内の納品は難しい見込みです。クルーに対しては、お客様から数多くのご要望が寄せられていることは伝えてあります。